

音楽 タイムライン

「音楽は一生の友達」

はじめに

西暦1600年頃のルネッサンスの時代に始まったと言われている「音楽」400年以上の長い歴史を持ち、それぞれの時代にそれぞれの音楽の大きな特徴があります。私たちの身近にある「音楽」を時代と言う『タイムライン』に乗せてひも解く「音楽早わかり」コンサートです。世界的なピアニストで有り、エッセイスト・コメンテーターとしても活躍する「岡崎ゆみ」の分かりやすい解説と、40年以上の長きに渡り情操教育の現場で演奏会を行っている「東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団」のコラボレーションでお届けする『音楽タイムライン』。「音楽は一生の友達」をテーマに、このコンサートでは皆さんに音楽との素敵な出会いを体験して頂きます。

コンサートの概要

400年以上の歴史の中で「音楽の起源」というと、類人猿が木や石を叩いたり、叫ぶことでコミュニケーションを取っていた頃まで遡ることができるでしょう。この頃にはすでに音程やリズムの違いに気づく者が居たのではないかと考えられます。ここから音楽の歴史は大きく分けて「神と信仰の音楽」「教会から貴族」「サロンから劇場へ市民へ」「民衆の音楽～民族の音楽へ」の4つの時代に分類されます。この4つの時代から「現代」へのタイムラインに乗せてコンサートを展開していきます。

神と信仰の音楽

教会ルネッサンスの音楽が相当数残されており、それらは典礼文の言葉のイントネーションに沿って歌われます。当初は拍子がある訳ではなくあくまで言葉を語っていくその延長上あったものが17世紀後半バハ生誕以降、平均律が確立し24の調が確定し、教会のためのカンタータや受難曲など多くの宗教曲やヴァイオリンやチェロ、クラヴィーアのための練習曲が残されました。

教会から貴族

やがて世俗の支配階層が力をつけ領主の中から王侯貴族が生まれると、宮廷やサロンでの晩餐会や娯楽のための音楽が作られるようになります。作曲家や演奏家は「おほかえ楽師」としてもはやされます。

サロンから劇場へ市民へ

教会や一部の支配階級のための作品が、やがて豊かになった市民たちの娯楽として劇場で演奏されるようになります。民衆に受け入れられる音楽が生まれ、ベートーベンが時代の節目となる作品を作曲しています。社会的には産業革命が起こり、またナポレオン戦争が有り、大きく時代が転換していく時期です。舞踏会のための音楽や歌劇、バレエも素晴らしい作品が作られ、多くの音楽譜が出版されることでクラシック音楽が急速に広がっていきます。

民衆の音楽～民族の音楽へ

ロマン派後期になってくると、自分の気持ちを吐露するような音楽が主流になり、そしてついには調制の崩壊が起こり、音楽は無調・十二音技法の音楽が出現します。フランスでは印象派が生まれます。

現代

自分の思いを率直に表現することが当たり前となり、民族の独自性などに着目した作曲家が現れ始めます。それがやがて、オペラとオペレッタへと結びついていきます。演劇性が強く、踊り・歌・喜劇的要素が含まれるオペレッタから、より娯楽性のある大衆演劇と結びついてミュージカルへと発展していったのです。



ナビゲーター：ピアニスト 岡崎ゆみ



東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団



解説：指揮者 松岡究

演奏曲目例

下記曲目の中からトータル90分程度のプログラムを作成致します。

- ◆ヴィヴァルディ：合奏協奏曲「四季」
- ◆バハ「クラヴィーア協奏曲第3番」「主よ人の望みの喜びよ」
- ◆ハイドン：交響曲第94番「びっくり」
- ◆モーツァルト：「ピアノ協奏曲第20番」「アイネ クライネ ナハトムジーク」
- ◆ベートーヴェン：ピアノソナタ「月光」「エリーゼの為に」
- ◆シューベルト：「セレナーデ」「ます」
- ◆シューマン：「トロイメライ」
- ◆モーツァルト・ベートーヴェン：「トルコ行進曲」
- ◆ブラームス：「ハンガリー舞曲第5番」
- ◆シベリウス：「フィンランディア」
- ◆ドヴォルザーク：「ユーモレスク」
- ◆スメタナ：「ブルダバ（モルダウ）」
- ◆ホルスト：「ジュピター」
- ◆マイ・フェア・レディー～踊りあかそう
- ◆サウンド・オブ・ミュージック～ドレミの歌
- ◆ルロイ・アンダーソン「タイプライター」「プリंक・ブランク・ブルンク」
- ◆ジョージ・ガーシュイン「ラプソディ・イン・ブルー」
- ◆ジョン・ウィリアムズ「スター・ウォーズ」

音楽タイムライン 「音楽は一生の友達」



出演者

ピアニスト・ナビゲーター：岡崎ゆみ

オーケストラ：東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

★ゲストヴォーカリスト or ソリスト（※オプション）

※ご予算によりオーケストラは20～70名の編成を組みます。

※オプションプランのゲストヴォーカリストには麻倉未稀他、ソリスト（ソプラノやテナー）との組み合わせでのご提案も可能です。



プロフィール

岡崎ゆみ

ピアニスト・ナビゲーター

profile

東京藝術大学卒業、同大学院修了。大学院修士課程2年目の1983年にハンガリー給費留学試験に最優秀で合格し、ハンガリー国立リスト音楽院に留学。1986年朝日新聞社主催第6回「新人音楽コンクール」ピアノ部門に優勝。文部大臣賞を受賞。1989年にキングレコードよりデビューCDを発売、その後ソニーレコードからCDを発売する。2004年より始まった和光堂プレゼンツ「ファミリー&プレマクラシックコンサート」は未就学児と妊婦に向けたユニークなコンサートとして全国各地で好評を博す。2005年にCD付き著書「クラシックを聴くと良い子が育つ」を上梓。発売後2週間で丸善本店(丸の内)人文・ノンフィクションの部、第8位にランクイン。またクラシックの範囲にこだわらずシンガーの麻倉未稀とコラボレーションを行う。(財)ソニー教育財団評議員。2003年よりSony Music Artistsと契約。2007年より米国ワシントン州在住。当地の大学でアメリカ現代音楽と作曲を勉強し、またジャズ演奏をシアトルのジャズピアニスト、ダン・クラムリッチに、声楽をリーアン・キャンボスに師事。

東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団

オーケストラ

profile

1973年に日本新交響楽団として活動を開始、40年以上の歴史を誇る楽団として、これまで全国各地の1000万人以上の人々に本物のオーケストラの響きを届け、現在も年間100ステージを越す演奏会を行っている。1997年「東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団」と改称、同年4月に「第1回定期演奏会」開催。2007年、公益社団法人日本オーケストラ連盟の会員となる。2009年、文化庁の助成で「舞台芸術の魅力発見事業」を大分県臼杵市公演。2010年、文化庁主催「子供のための優れた舞台芸術体験事業」に出演、九州各地で延べ18公演を行う。2011年、前代未聞の野外第九コンサート『ウタジウム』（日産スタジアム主催）に出演。（下段写真参照）東日本大震災においては公益社団法人日本オーケストラ連盟、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会の協力と公益財団法人ローム・ミュージック・ファンデーションの助成で東北各地において復興支援コンサートを主催し社会貢献をはたしている。2012年、松岡究を常任指揮者に迎え、第31回定期演奏会「ベートーベン・交響曲第七番、カール・マルクス・世俗的カンタータ・カルミナ・ブラーナ」、第32回定期演奏会「モーツァルト・レクイエム交響曲第40番ト短調」等で、マスコミ各紙をはじめ、満員の聴衆の絶賛を浴びた。2014年、公益財団法人石川県音楽文化振興事業団などと共同制作した委嘱新作オペラ「滝の白糸」（作曲：千住明、台本：黛まどか、演出：十川稔、指揮：大友直人）を新国立劇場にて公演し、絶賛を浴びた。一方、地域の人々と手を携えた演奏活動や自主公演も継続し、クラシックを身近に伝える『名曲コンサート』、『初夢コンサート・大田区』（2001年～）、『親子のためのふれあいコンサート・目黒区』（2009年～）、家族で楽しむ『たのしっこコンサート・大田区』（2010年～）などは、地域に密着したクラシックコンサートとして、幅広い聴衆から支持を得て、2015年3月までに78回の自主公演の実績を数える。

オプションプラン：ゲストヴォーカル例

麻倉未稀やソリスト（ソプラノやテナー）をゲストに招くスタイルのご提案も可能です！

麻倉未稀

profile

1981年CMソング「ミスティ・トワイライト」でデビュー。80年代の大ヒットテレビドラマ「スクール・ウォーズ」「スチュワーズ物語」の主題歌「HERO」「What a feeling」FLASH DANCE」はいまだに強烈な印象を残す。その類まれな歌唱力は折り紙つきで、ポップスにとどまらずJAZZ、ゴスペル、ラテン、クラシックに至るまで幅広く歌いこなす。クラシックの聖地紀尾井ホールでの2年連続出演はポップス歌手としては異例の出来事として語り継がれている。現在は、歌の活動のみならず、ミュージカル「アニー」2009年出演をはじめとする舞台や、旅番組のレポーターとしても活躍。大阪出身の庶民的な一面も見せる。友人のピアニスト「岡崎ゆみ」の誘いも有リスクールコンサートにも精力的に参加している。



《問い合わせ先》

(有)ミュージックアプリケーション 〒106-0032 東京都港区六本木5-16-5 インペリアル六本木 311号

TEL: 03-5573-9977

FAX: 03-5573-9978

MAIL: info@music-ap.co.jp

http://music-ap.co.jp